

大会開催報告書

晴々とした1月27日（日）、BumB東京スポーツ文化館（マルチスタジオC）にて、「第2回JDKF.空手道競技大会」を開催しました。国内初となる聴覚障害者向けの「音声が見える空手道大会」として、審判員の声による合図の指示をライトの点滅で知らせるなど、聞こえない選手が「聞こえないハンディ」を気にせず、安心して競技に集中できるよう、情報保障の行き届いた環境が作られた大会です。去年2月に同じ会場で初めて開催し、今回が2回目となります。

出場選手は全員で53名、うち31名がろう者・難聴者、22名が聴者の選手でした。審判員9名、ご来賓、ご来場のみなさま、運営スタッフをあわせて述べ150名がこの会場に集まりました。



17の категорияにそれぞれの選手がエントリーし、全空連のルールに従ってそれぞれの競技に臨み、熱気溢れた戦いとなりました。特に「高校・一般」の形競技の決勝戦では、北村陽（大阪）選手と小倉涼（埼玉）選手が、それぞれの得意形を演武し、真剣な眼差しで勝負し、胸が熱くなりました。



この大会には、音声が見える工夫が3つあります。

1. 審判員の合図をライトで知らせる。

組手の競技中、審判員が「ヤメ！」と合図の音を出すのと同時に、赤いライトが点滅します。これによってろう者も聴者もハンディなしに対等に試合に臨むことができます。



2. 審判員の手話による「勝負始め」。

組手競技の試合開始「勝負始め」を手話で表現します。審判員が手話を使うことで、聞こえない選手も安心して競技に臨むことができます。



